

決算説明会

2018年3月期 第1四半期

ミネベアミツミ株式会社

2017年8月4日

1Q連結業績ハイライト

売上高、営業利益、経常利益、純利益は 第1四半期として過去最高

(百万円)	2017年3月期		2018年3月期	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q	伸び率	伸び率
売上高	120,288	196,418	193,204	+60.6%	-1.6%
営業利益	6,971	14,300	17,062	2.4倍	+19.3%
経常利益	7,255	13,621	17,372	2.4倍	+27.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,176	16,233	14,181	4.5倍	-12.6%
一株当たり 四半期純利益 (円)	8.48	39.65	33.49	3.9倍	-15.5%

為替レート	17/3期1Q	17/3期4Q	18/3期1Q
US\$	111.12円	114.29円	111.48円
ユーロ	125.16円	121.14円	121.53円
タイバーツ	3.14円	3.24円	3.24円
人民元	17.03円	16.54円	16.18円

2017/8/4

2

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

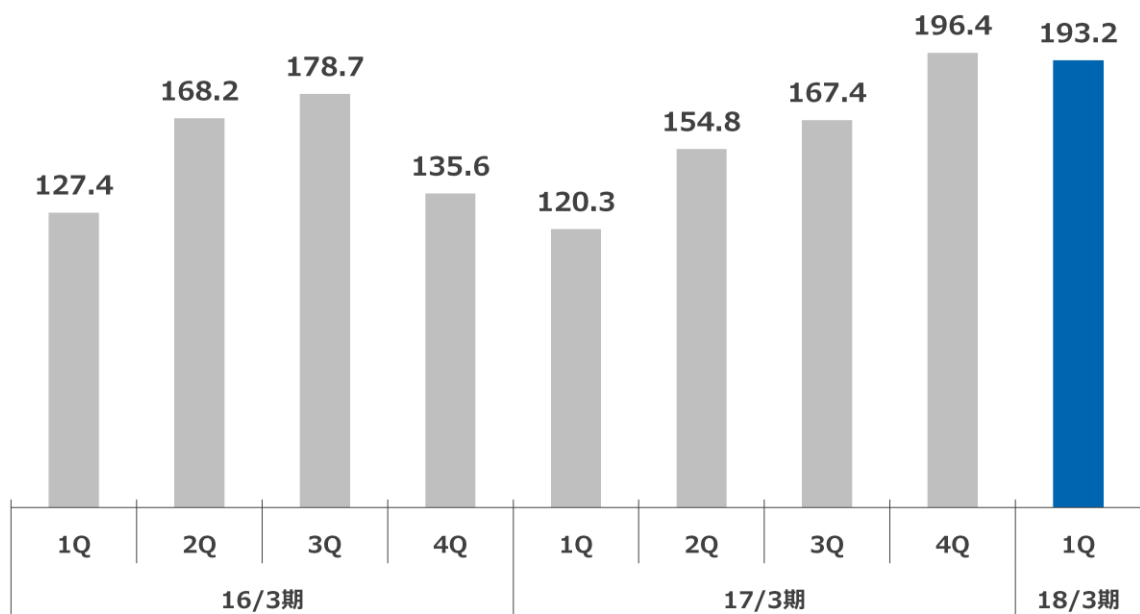
2018年3月期第1四半期の連結業績は、売上高は前年同期比で60.6%増、前四半期比で1.6%減の1,932億400万円でした。営業利益は、前年同期比で2.4倍、前四半期比で19.3%増の170億6,200万円、純利益は前年同期比で4.5倍、前四半期比で12.6%減の141億8,100万円となりました。売上高、営業利益、経常利益、純利益のすべてにおいて、第1四半期として過去最高となりました。

これは、ボールベアリング、モーターなどの事業が堅調に推移したことに加えて、スマホ部品等の出荷が想定を上回ったことによる好影響がありました。

為替の影響は、売上高で前四半期比マイナス38億円、前年同期比マイナス1億円、営業利益で前四半期比マイナス14億円、前年同期比プラス1億円、との推計です。

第1四半期として過去最高

(10億円)



2017/8/4

3

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

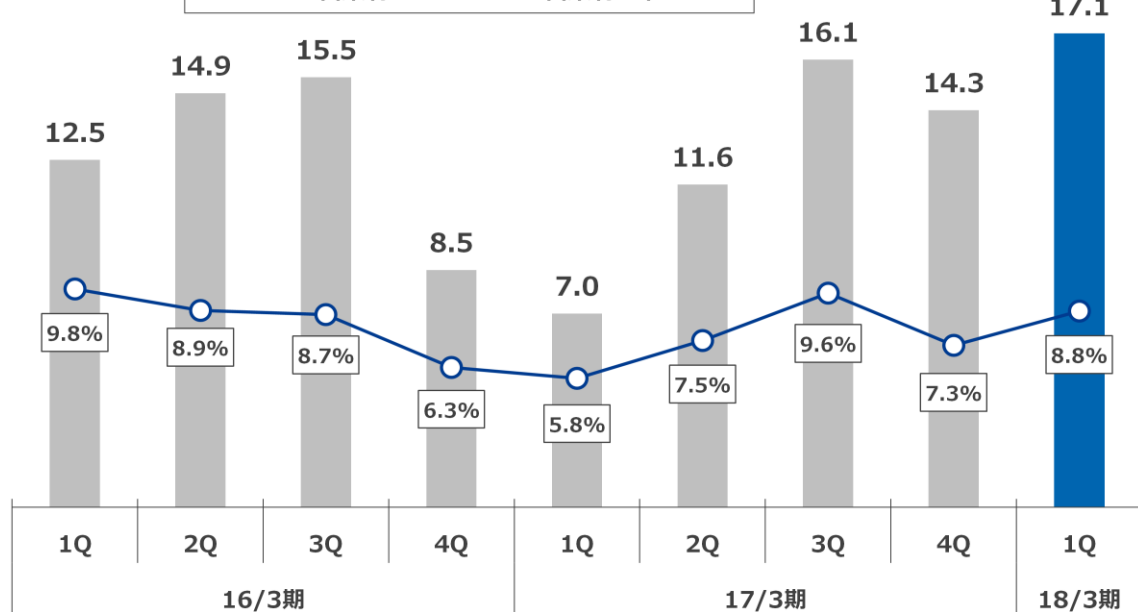
売上高は、第1四半期として過去最高を更新しました。第2四半期も、需要期を迎えるLEDバックライトおよびスマートフォンなどに使用されるカメラ用アクチュエータの増加を主要因に増収を見込んでいます。

第1四半期として過去最高

(10億円)

■ 営業利益

○ 営業利益率



2017/8/4

4

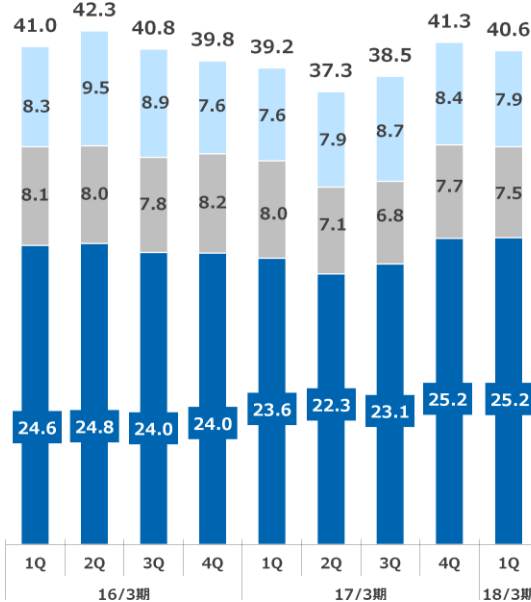
MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

営業利益も、第1四半期として過去最高を更新しました。前年同期比での増益は3四半期連続です。第2四半期も、需要期を迎えるLEDバックライトおよびカメラ用アクチュエータの増加を中心に第1四半期に比べ増益を見込んでいます。

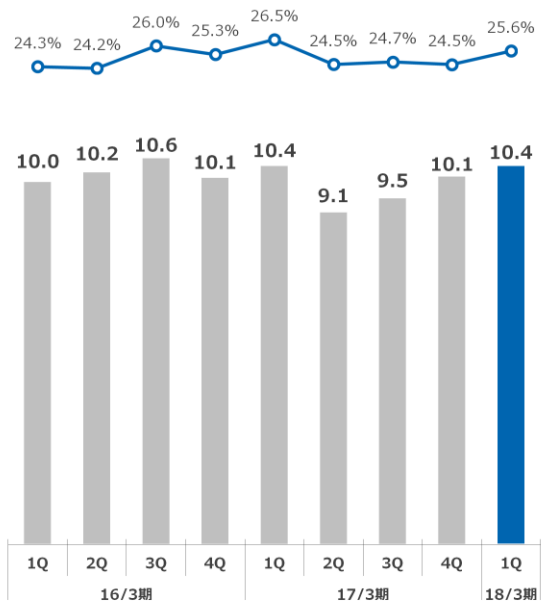
売上高 (10億円)

■ ピボットアッセンブリー
■ ロッドエンド・ファスナー
■ ボールベアリング



営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率



2017/8/4

5

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

機械加工品事業セグメントについてご説明いたします。

第1四半期の売上高は、前四半期比で2%減の406億円、営業利益は3%増の104億円、営業利益率は1.1ポイント上昇し25.6%となりました。ボールベアリングにおいて、引き続き高水準の生産および出荷が続いていますが、ドルに対するパーツ高によりマイナス影響がありました。

ボールベアリングの売上高は、前四半期比横ばいの252億円でしたが、利益は増加しました。外部販売数量は、月平均で1億8,100万個と、19四半期連続で前年同期を上回りました。また、生産数量は5月と6月に過去最高となる2億6,700万個に達し、5月にご案内いたしました生産性改善による生産能力増強は着実に進捗しています。

ロッドエンド・ファスナーの売上高は、円高の影響もあり、前四半期比3%減の75億円となりました。利益は前四半期比で減益となりました。

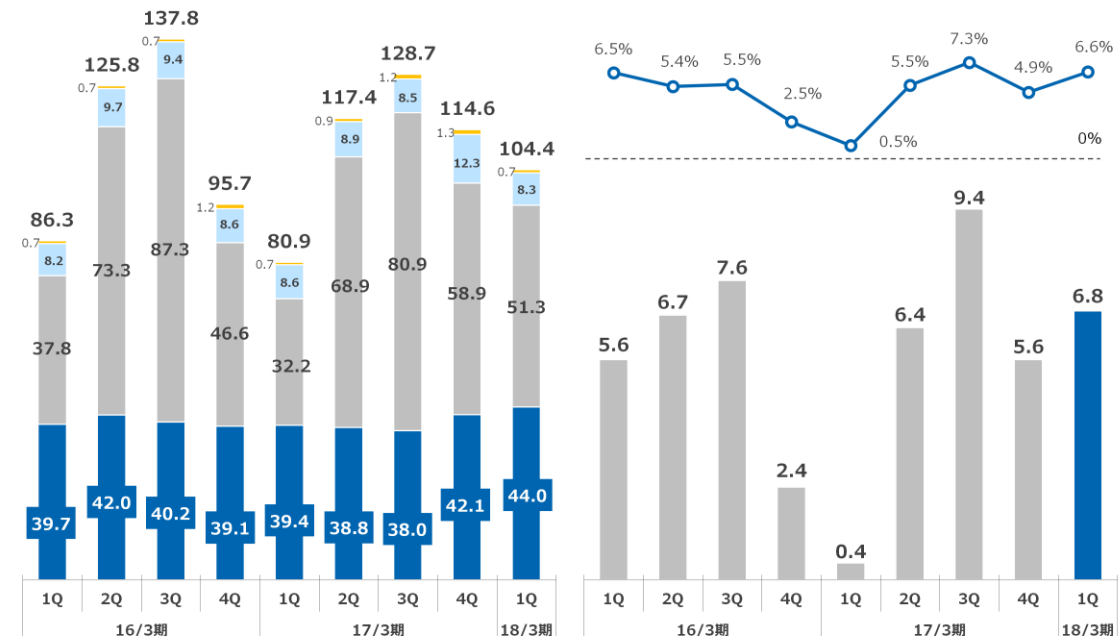
ピボットアッセンブリーの売上高は、前四半期比6%減の79億円となりました。出荷数量は前四半期比7%減少しましたが、当社シェアは80%超を維持しており、安定的に収益に貢献しています。

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)

■ その他 ■ センシングデバイス ■ エレクトロデバイス ■ モーター

■ 営業利益 ○ 営業利益率



2017/8/4

6

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

電子機器事業セグメントについてご説明いたします。

第1四半期の売上高は、前四半期比で9%減の1,044億円、営業利益は22%増の68億円、営業利益率は1.7ポイント上昇し6.6%となりました。

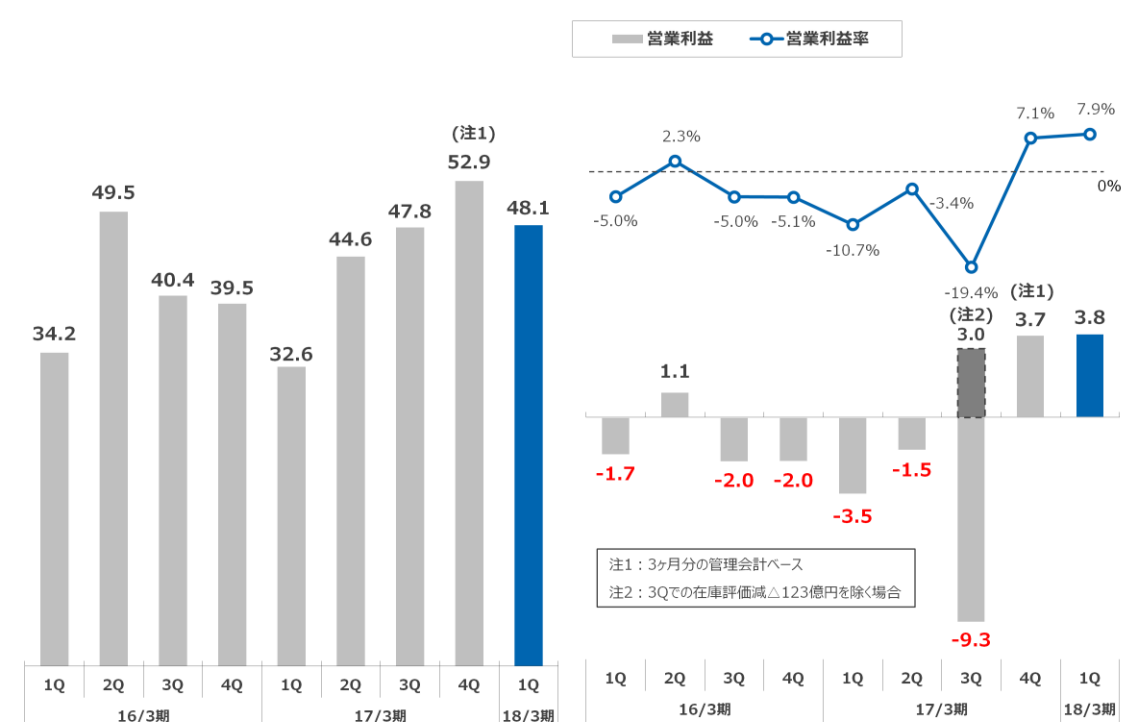
モーターの売上高は、自動車向けを中心に堅調に推移し、前四半期比で5%増の440億円となりました。

エレクトロデバイスの売上高は、前四半期比13%減の513億円となりました。昨年度の第1四半期は、スマホ市場の在庫調整という特殊事情がありましたが、当第1四半期は通常の季節性の範囲内で、大手顧客向けのLEDバックライトの生産が順調に立ち上がりました。今後の需要期に向けて第2四半期は売上、利益ともさらに伸びる見込みです。

センシングデバイスの売上高は83億円となりました。前四半期にミネベアインテック（旧社名ザルトリウス・メカトロニクスT&H）を3ヶ月分多く連結したことによる特殊要因を控除すると、前四半期比でほぼ横ばいでした。

売上高 (10億円)

営業利益 (10億円)



2017/8/4

7

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

ミツミ事業セグメントについてご説明いたします。

第1四半期の売上高は481億円、営業利益は38億円、営業利益率は7.9%となりました。

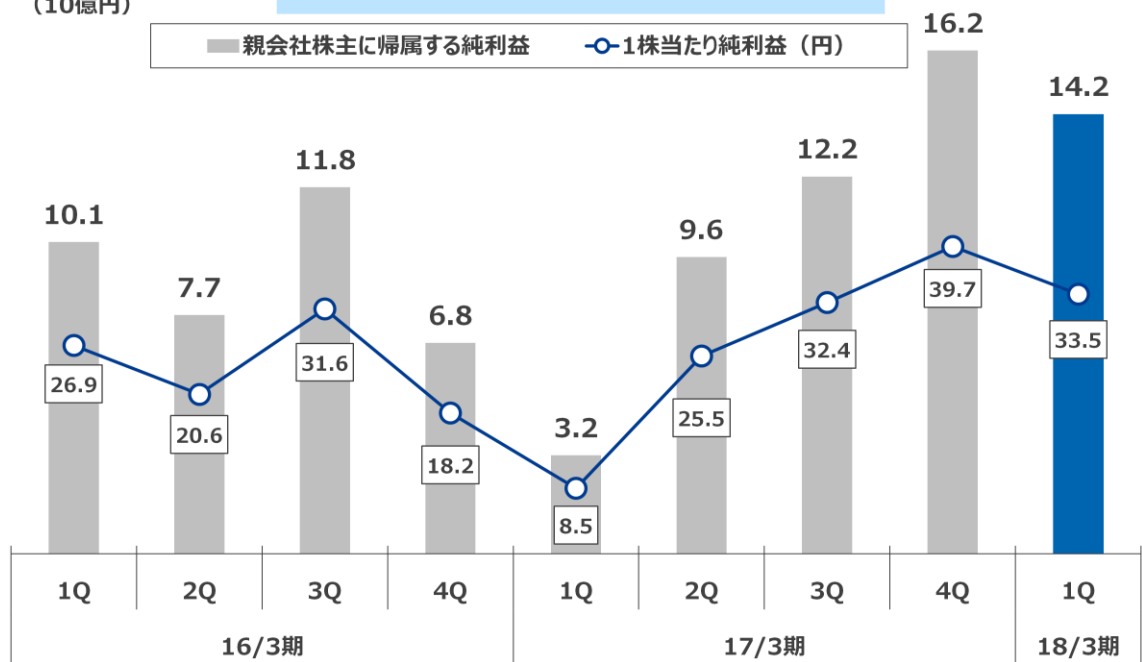
これは、カメラ用アクチュエータの生産性が大幅に改善したこと、および新型ゲーム機器の出荷が開始したことのほか、精密部品、電源、車載、半導体などの事業の収益性がさらに改善し、利益が底上げされたことによるものです。第2四半期も、引き続き好調な需要を受けて売上、利益とも伸びる見込みです。

第1四半期として過去最高

(10億円)

■ 親会社株主に帰属する純利益

○ 1株当たり純利益 (円)



2017/8/4

8

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

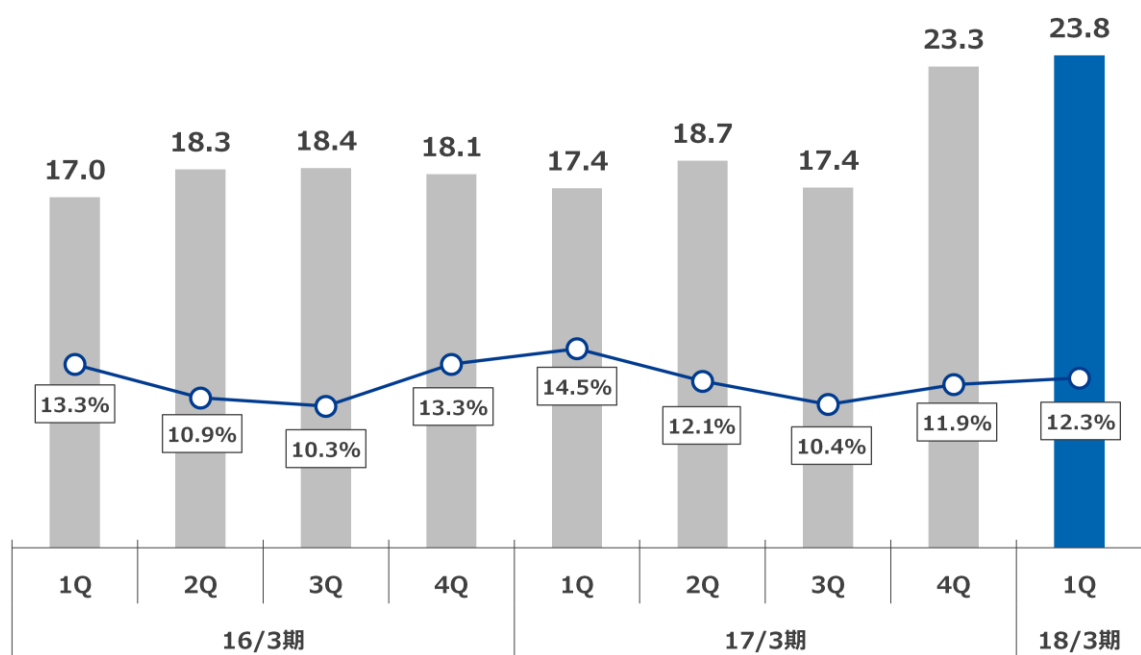
純利益も、第1四半期として過去最高を更新しました。

前四半期比では減益ですが、前四半期に特別損益として計上した負ののれん発生益および社債の償還損による影響を控除すると、実質的には大幅増益でした。

(10億円)

■ 販管費

○ 売上高販管費比率



2017/8/4

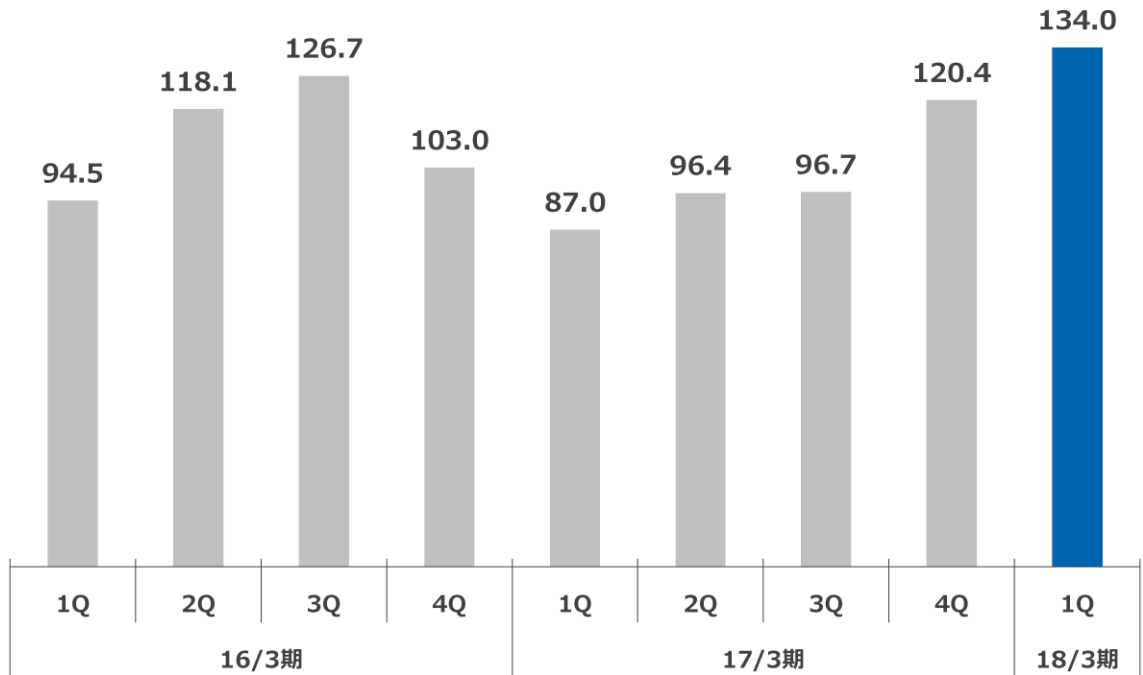
9

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

販管費は、前四半期比5億円増加し、238億円となりました。売上高販管費比率は前四半期比0.4ポイント増加し12.3%となりました。

(10億円)



2017/8/4

10

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

第1四半期末のたな卸資産は、3カ月前と比べると136億円増加し、1,340億円となりました。これは、主に新型スマホ向け部品およびゲーム機器において出荷前の在庫が増加したもので、第2四半期は出荷量がさらに伸びるため、在庫水準は適正化していくと見込んでいます。

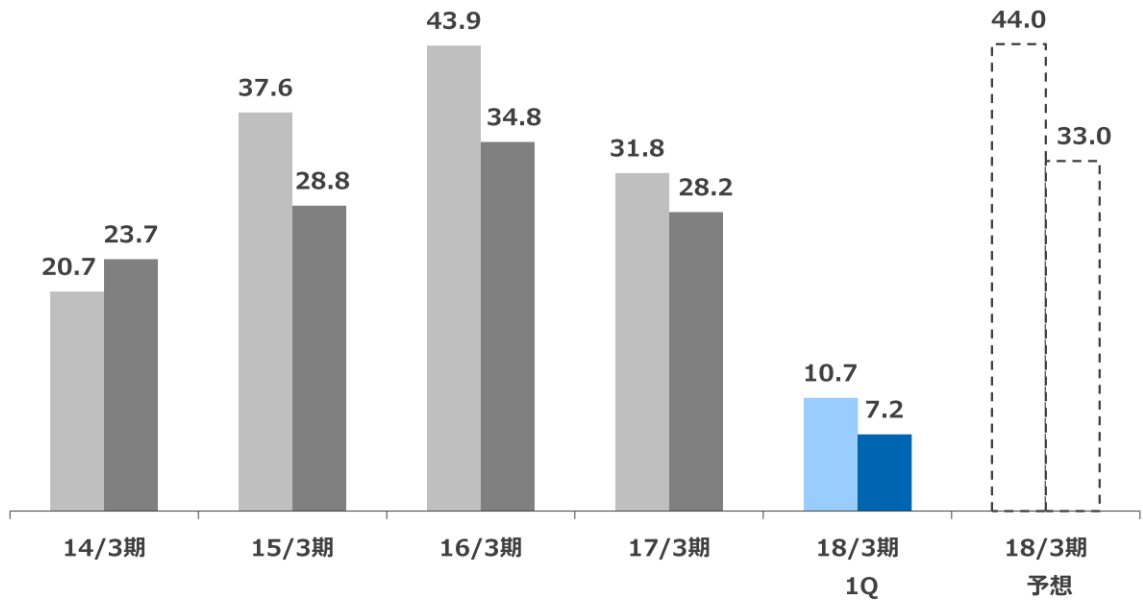
設備投資額・減価償却費

年推移

(10億円)

■ 設備投資額

■ 減価償却費



2017/8/4

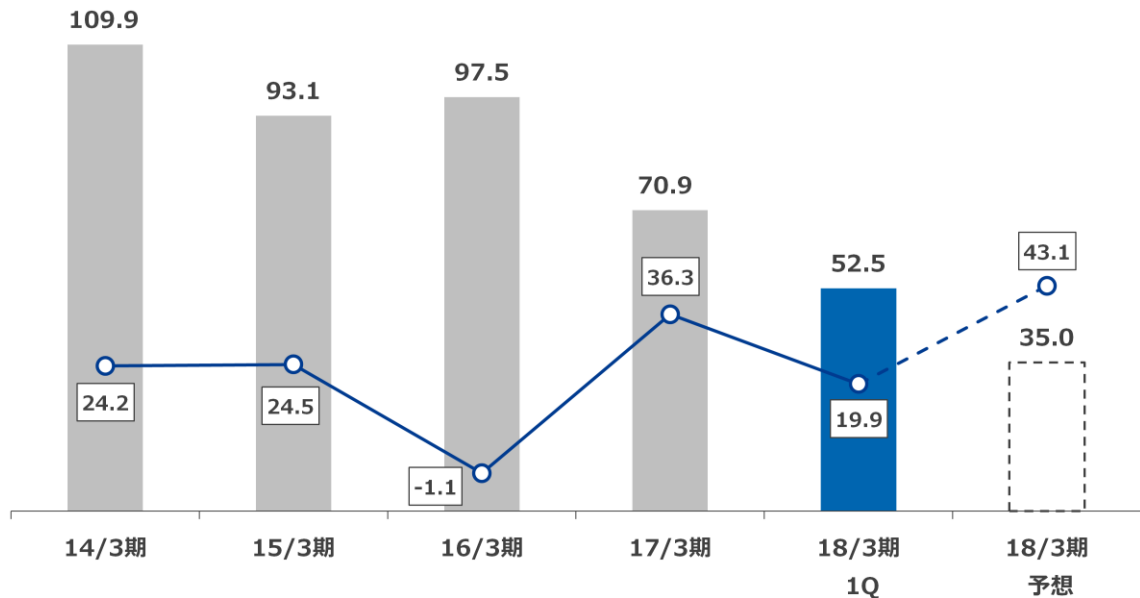
11

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

第1四半期の設備投資は107億円、減価償却費は72億円でした。今期は、ミツミ事業のカメラ用アクチュエータを中心に、設備投資、減価償却費ともに増加する見込みです。

(10億円)

■ ネット有利子負債 ● フリーキャッシュフロー



2017/8/4

12

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移です。第1四半期末におけるネット有利子負債は525億円となり、2017年3月期末から184億円減少しました。

今期は設備投資が増加するものの、利益の拡大によりフリーキャッシュフローは大きく改善し、ネット有利子負債は更に減少する見込みです。一方で、中期の成長に向けて、積極的なM&Aなども引き続き検討していきます。

業績予想

売上高、営業利益、経常利益、純利益は すべて過去最高へ

(百万円)	2017年3月期	2018年3月期予想				
	通期	上半期 従来予想	上半期 修正予想	下半期 修正なし	通期 修正予想	前期比
売上高	638,926	376,400	436,400	373,600	810,000	+26.8%
営業利益	49,015	26,300	37,300	29,700	67,000	+36.7%
経常利益	48,393	25,800	36,800	29,200	66,000	+36.4%
親会社株主に帰属する 純利益	41,146	19,400	28,700	22,100	50,800	+23.5%
一株当たり純利益 (円)	107.33	45.83	67.78	52.20	119.97	+11.8%

為替レート	17/3期 通期	18/3期 2Q-4Q想定
US\$	108.76円	105.00円
ユーロ	119.34円	115.00円
タイバーツ	3.09円	3.06円
人民元	16.18円	16.00円

2017/8/4

13

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

これは、今期2018年3月期の業績予想をまとめたものです。

今期は、売上高、営業利益、経常利益、純利益のいずれも、過去最高を更新する見込みです。

上半期については、第1四半期に引き続き、主力製品であるボールベアリングの外販数量の増加が見込まれるほか、LEDバックライト、カメラ用アクチュエータ、およびゲーム機器が本格的な需要期を迎える見込みです。このような状況を勘案し、現時点の予想可能な範囲で当社の業績に与える影響について、為替、その他の状況を考慮して、業績予想を表の通り上方修正しました。なお、下半期については、為替動向および顧客動向の不透明感等を鑑みて、期初計画を据え置くこととしております。

セグメント別業績予想

(百万円)	2017年3月期	2018年3月期予想				
	通期	上半期 従来予想	上半期 修正予想	下半期 修正無し	通期 修正予想	前期比
売上高	638,926	376,400	436,400	373,600	810,000	26.8%
機械加工品	156,310	80,200	81,900	80,800	162,700	4.1%
電子機器	441,615	202,500	245,500	194,500	440,000	-0.4%
ミツミ事業	40,342	93,300	108,700	97,900	206,600	5.1倍
その他	658	400	300	400	700	6.4%
営業利益	49,015	26,300	37,300	29,700	67,000	36.7%
機械加工品	39,147	20,100	21,000	20,900	41,900	7.0%
電子機器	21,898	10,600	15,900	11,400	27,300	24.7%
ミツミ事業	2,315	4,400	9,000	5,600	14,600	6.3倍
その他	△120	△200	△300	△200	△500	4.2倍
調整額	△14,223	△8,600	△8,300	△8,000	△16,300	14.6%

2017/8/4

14

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

ミニチュアボールベアリングへの需要は伸びている

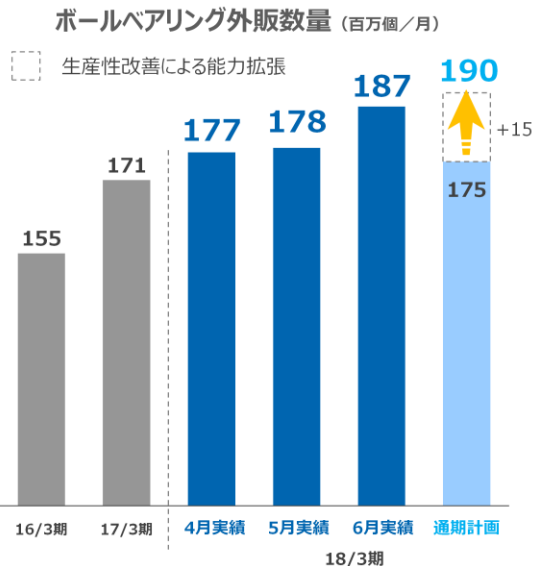
月平均外販数量は19四半期連続で前年同期比増加中！
6月の外販数量は過去最高の1億8,700万個を達成
2018年5月までに月産3億個の生産能力を達成する！

需要に陰り無し

- ✓ 1Q外販数量は前年同期比+11%
- ✓ 成長ドライバーは3つ
①自動車 ②高級家電 ③サーバー

収益性は今後改善へ

- ✓ 生産性改善による能力拡張は着実に推移
(5月、6月の生産は2億6,700万個！)
- ✓ 在庫水準の適正化により収益性改善へ



2017/8/4

15

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

次に、当社の主力製品であるミニチュアボールベアリングの状況についてご説明します。ミニチュアボールベアリングの外販需要は極めて強く、第1四半期の外販数量は19四半期連続で前年同期を上回り、6月の外販数量は過去最高の1億8,700万個を達成しました。これは自動車、高級家電、サーバー向けで旺盛な需要が続いていることが主要因で、今後も着実に伸びていくと見込んでいます。

一方、主にピボットアセンブリーやモーター向けを中心とする内販需要については、足元ではHDD関連の一部減速があるものの、全体としては堅調に推移しており、2016年9月以降、外販と内販を合わせた総販売数量が生産数量を上回る状況が続いています。

そのため、生産能力を引き上げることが急務となっていました。本年5月の決算説明会でご説明しました生産性改善による生産能力の増強は着実に進捗しており、5月と6月の生産数量は過去最高となる2億6,700万個となりました。

なお、本年2月の前第3四半期決算電話会議でご説明しました生産設備の増産投資については、稼働時期を可能な限り後ろ倒しにして、当面は現有設備での生産性改善による生産能力の増強を優先させる方針です。仮にこの増産投資分を稼働させた場合の生産能力は、2018年5月までに月産3億個までの増産が可能と推計しています。

LEDバックライトは期初計画を上回る

第1四半期は通常の季節性で順調な立ち上がり 第2四半期以降はいよいよ本格的な需要期へ

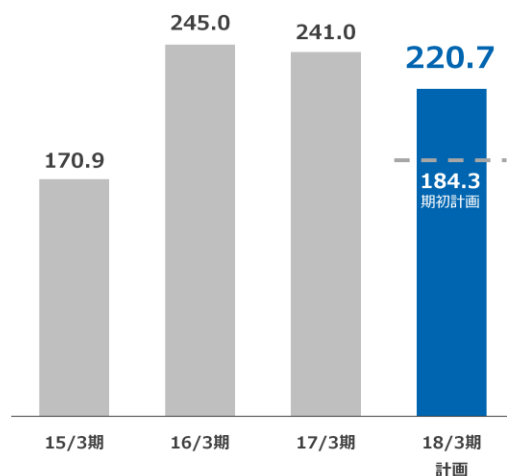
今期は順調な立ち上がり

- ✓ 大手顧客向け新モデルの立ち上がりは順調
- ✓ 高品質、低コストで受注は堅調
- ✓ 加速償却の完了でリスク最小化へ

来期もスマホ向けの出荷を見込む

- ✓ 自動車向けは高級車向けを中心に、
高品質製品でさらなる拡販へ
- ✓ フルスクリーンタイプLEDバックライトの開発を継続

エレクトロデバイス売上推移（10億円）



2017/8/4

16

MinebeaMitsumi

Passion to Create Value through Difference

次に、LEDバックライトの状況についてご説明します。

本年度の第1四半期は、主要顧客向けLEDバックライトが昨年度と異なり通常の季節性の範囲内で順調に立ち上がりました。当社のLEDバックライトは、高品質と低コストで堅調な受注を維持しております。また、本年度をもってLEDバックライトの製造設備の加速償却が完了する予定であり、仮に本ビジネスが将来減少することがあったとしても、損益への影響は最小化されております。

今後のスマホ市場におけるディスプレイの動向については、現時点では明言を避けませんが、当社としては、高級車向けを中心とした車載用LEDバックライトをさらに拡販するとともに、スマホ市場においては、来年度についてもLEDバックライトに対する需要は一定程度見込めると考えており、特にフルスクリーンタイプのLEDバックライトの開発を継続しております。

スマホ、ゲーム以外の改善が ミツミ事業の収益安定化に大きく貢献

2Q以降、スマホ、ゲームに強い追い風

- ✓ カメラ用アクチュエータはさらなる出荷増へ
- ✓ 新型ゲーム機器は本格的な増産へ

七本槍が収益安定化に貢献

- ✓ センサー、コネクタ/スイッチ、電源、無線、アナログ半導体が順調に収益改善し、ミツミ事業の収益安定化に大きく貢献

ミネベアミツミ七本槍（ミツミ製品）



ゲージ圧センサー



気圧センサー



圧力センサー



USB Type-C



車載コネクタ
(FAKRA)



タクティール
スイッチ



情報機器向け
ACアダプタ



シャークフィンタイプ
アンテナ



AC/DC制御用IC

次に、ミツミ事業の状況についてご説明します。

第1四半期の営業利益は期初計画を大きく上回り、前四半期比でも増益となりました。計画を上回った背景として、5月の本決算でサブコア事業と定義しましたカメラ用アクチュエータおよび新型ゲーム機器が想定を上回って推移したことに加え、コア事業であり、「ミネベアミツミ七本槍」の構成製品であるセンサー、コネクタ/スイッチ、電源、無線、アナログ半導体の全てにおいて収益性が大幅に改善し、ミツミ事業の利益を底上げいたしました。

第2四半期以降、カメラ用アクチュエータおよび新型ゲーム機器は強い追い風を受けて、大幅な出荷増を見込んでいます。また、その他事業についても引き続き生産性の改善を進め、ミツミ事業の収益安定化に努めてまいります。

このように、サブコア事業で利益を創出しつつ、コア事業の成長を図る戦略は順調に進捗しています。

リコー様と共同事業開発契約を締結

ベッドセンサーシステムで究極の見守りサービスの実現へ

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

高精度センシングデバイス
ミツミの無線通信技術



RICOH
imagine. change.

システム化技術
高水準のカスタマーサポート



2021年3月期
売上目標

30億円
(介護施設のみ)

IoTの中核として社会インフラへ拡張

PHASE I

介護市場における
高齢者を見守るための
基本プラットフォームの確立

- ・生体情報の検知
(体重、体動、呼吸等)
- ・転倒・転落防止アラート
- ・各種介護システムと連携
(介護記録、ナースコール)

PHASE II

介護市場・医療市場における
AIの活用により疾病等の
予知／予後のサポートを提供

- ・生体情報の検知 (心拍)
- ・AIの活用によるデータ分析
- ・生活活動パターンの分析
- ・利用者に最適な医療・介護
サービスの提供

PHASE III

介護・医療・育児・その他市場における
**統合型情報サービスプラットフォーム
へ拡張**

- ・各種センサーによる生体情報の検知
(血糖値・血圧値など)
- ・監視カメラと位置測位の情報、医療系
の他のサービスや機器の情報の統合的
な活用



2017/8/4

18

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

次に、5月18日に発表いたしました、リコー様とのベッドセンサーシステムの共同事業開発契約について、簡単にご説明します。

これは、ミネベアミツミのセンサー技術と、リコー様グループのデータ収集技術を組み合わせ、ベッド上にいる人の体重や体の位置、呼吸の状態などの情報をリアルタイムで測定するもので、まずは介護施設などを中心に事業を展開していきます。

2021年3月期に国内の介護施設向けで30億円規模の売上を目指します。

今後も、ミツミ保有技術との融合で、ヘルスケアのほか、自動車や社会インフラ向けIoT関連製品の開発を進めており、第三の収益の柱として成長させていきたいと考えています。



上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。